

# 「平和と国の発展に尽くす」

## ペリリュー島戦没者を慰霊

太平洋戦争中にペリリュー島(現パラオ共和国)で命を落とした日本兵の遺族らでつくる「水戸二連隊ペリリュー島慰霊会」(田崎喜信会長)の戦没者合同慰霊祭が23日、水戸市見川の県護国神社で開かれた。

ペリリュー島は昭和19年9～11月、日米両軍の壮絶な陸上戦の舞台となり、日本軍は約1万人が戦死した。現地にはいまだ多数の日本兵の遺骨が残され、政府やボランティアらによる収集活動が続いている。

慰霊祭では、田崎会長が「英霊の魂を受け継ぎ、平和の維持とわが国の発展に

力を尽くしていきたい」と述べ、代表者が玉串をささげた。その後、全員で国歌を斉唱し、茨城の先人らの御霊を供養した。

今年3月に戦没者遺骨収集推進法が成立。硫黄島や、ペリリュー島を含む海外での情報収集や遺骨の送

還などを担う「日本戦没者遺骨収集推進協会」(東京都港区新橋)が事業を開始している。

戦後70年の昨年4月には、天皇、皇后両陛下がパラオをご訪問になり、ペリリュー島で戦没者を慰霊されている。



慰霊祭で戦没者に玉串をささげる参列者ら  
＝23日午後、水戸市見川(丸山将撮影)